

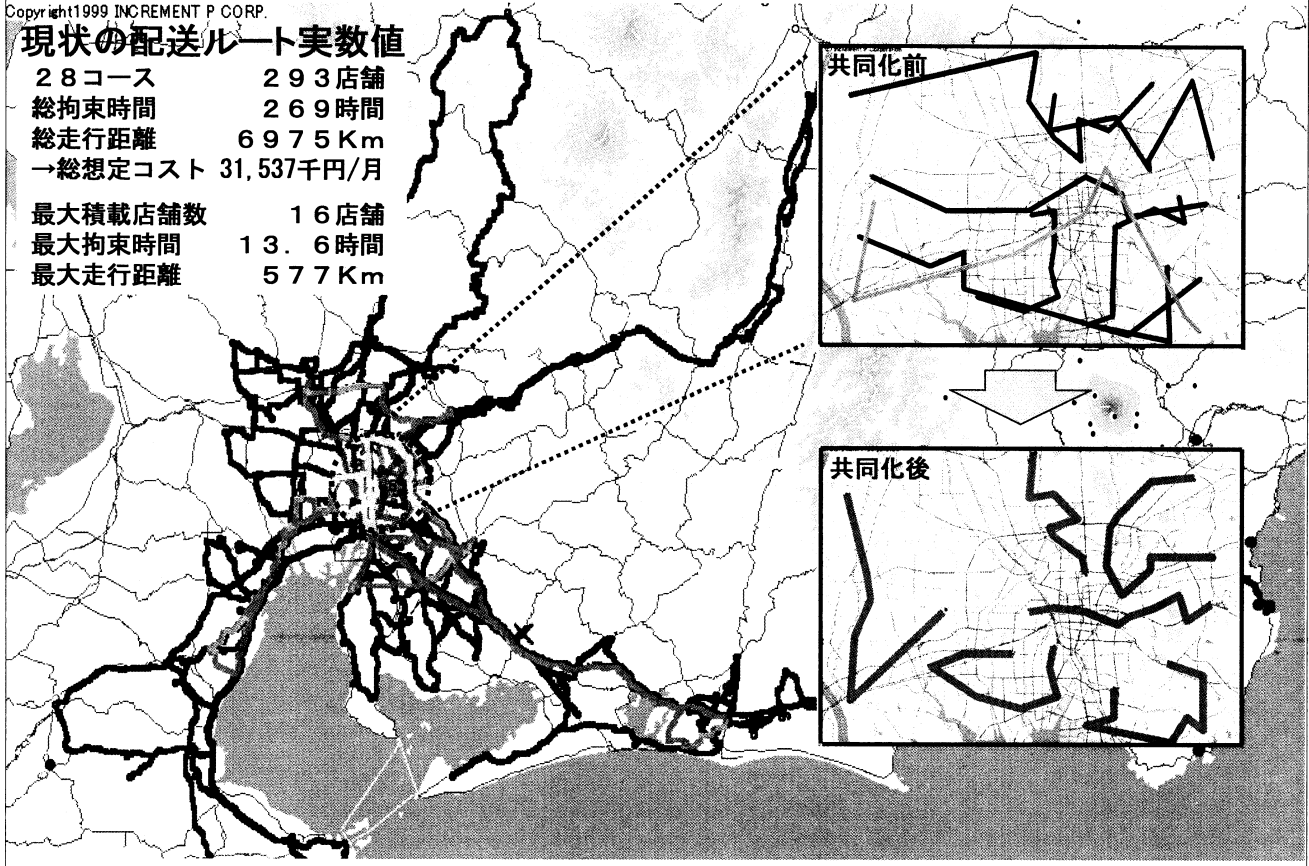
(事例-1) 大手生菓子チェーン物流共同化

Copyright1999 INCREMENT P CORP.

現状の配送ルート実数値

28コース 293店舗
 総拘束時間 269時間
 総走行距離 6975Km
 →総想定コスト 31,537千円/月

最大積載店舗数 16店舗
 最大拘束時間 13.6時間
 最大走行距離 577Km



(事例-1) 効率化の成果及び物流共同化のポイント

【成果】

現状	店舗数	車輛台数	走行距離	配送費用
A社	17	4	651	↓
B社	182	13	4,424	
C社	103	11	1,900	
合計	302	28	6,975	

共同物流	302	20	5,466	23,800 (千円/月)
------	-----	-----------	-------	-------------------------

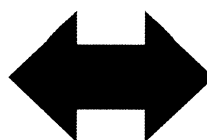
コスト削減額	▲ 7,737 (千円/月)
コストアップ部分	1,860
年間改善額 →	▲ 70,524 (千円/年)

【ポイント】

オープンコスト

成果の公平な配分

ゲインシェア

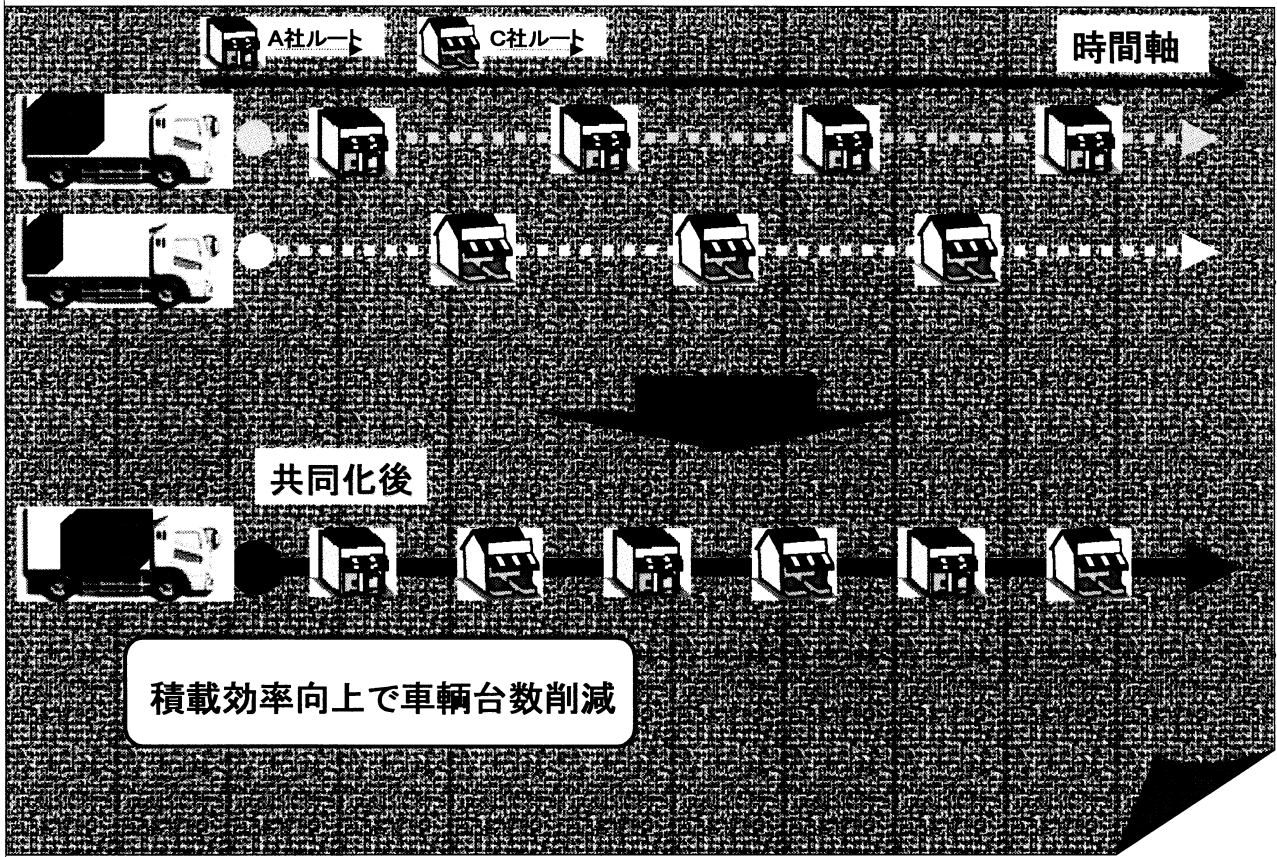


参加企業間の利害調整

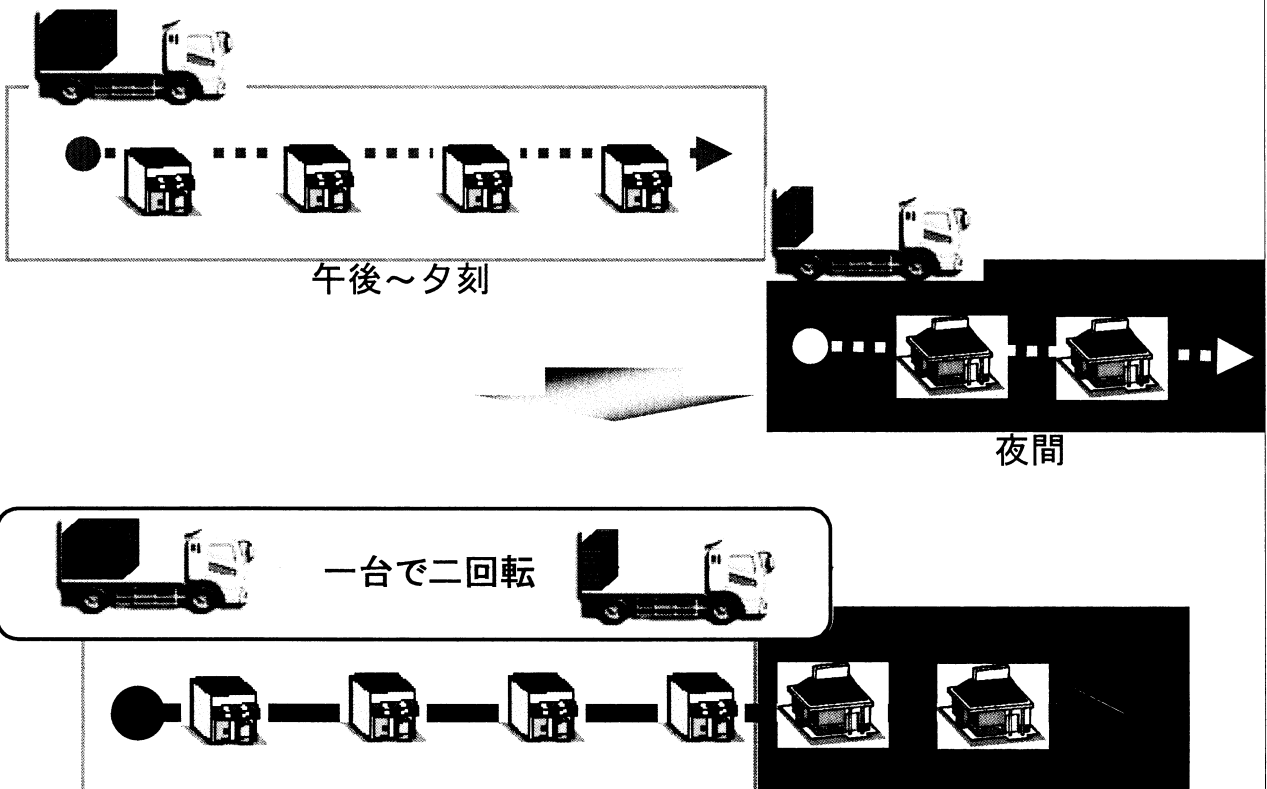
既存物流業者との調整

生産・販売に係わる情報の守秘

配送共同化のイメージ1



配送共同化のイメージ2



LOGIPLANの3PL

ソリューションデザイン策定の切り口(事例-2) (加工食品メーカーB社の事例)

- (A)物流フローの最適化
- (B)業務フローの簡素化
- (C)トータル在庫の削減

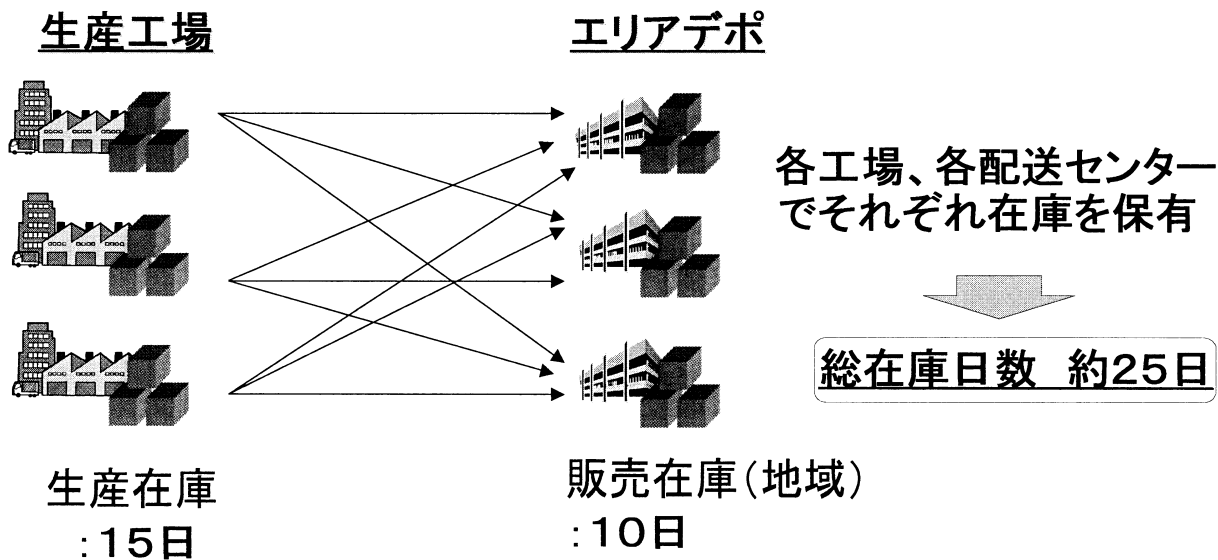
支援システム
の構築・提供

「組合せ」の
企画・導入

物流体系の再構築による全体在庫の削減

冷凍食品メーカーB社の場合

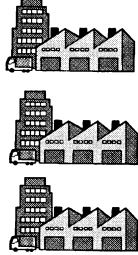
従来



物流体系の再構築による全体在庫の削減

改善後

生産工場

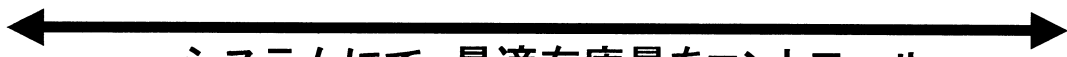
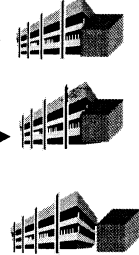


マザーセンター

在庫集約および
ハブセンター機能

FDC

(配送センター)



システムにて、最適在庫量をコントロール

在庫日数
: 10日

在庫日数
: 5日

マザーセンターに在庫集約。
工場、配送センター在庫を必要最小化。

総在庫日数 15日以下

システムイメージと受託範囲

工場

MDC

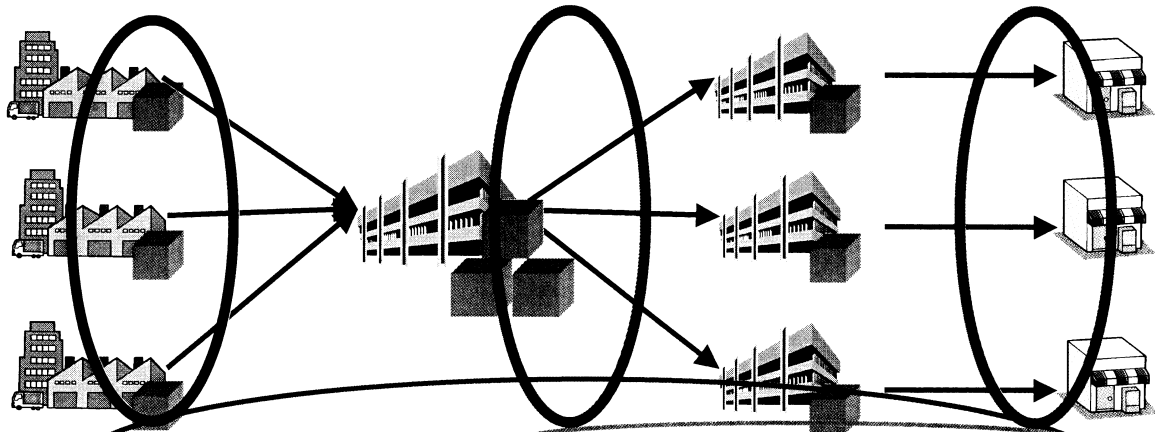
FDC

お客様

①生産発注
(発注数量計算)

②FDCへの
在庫自動補充

③得意先への
在庫自動補充

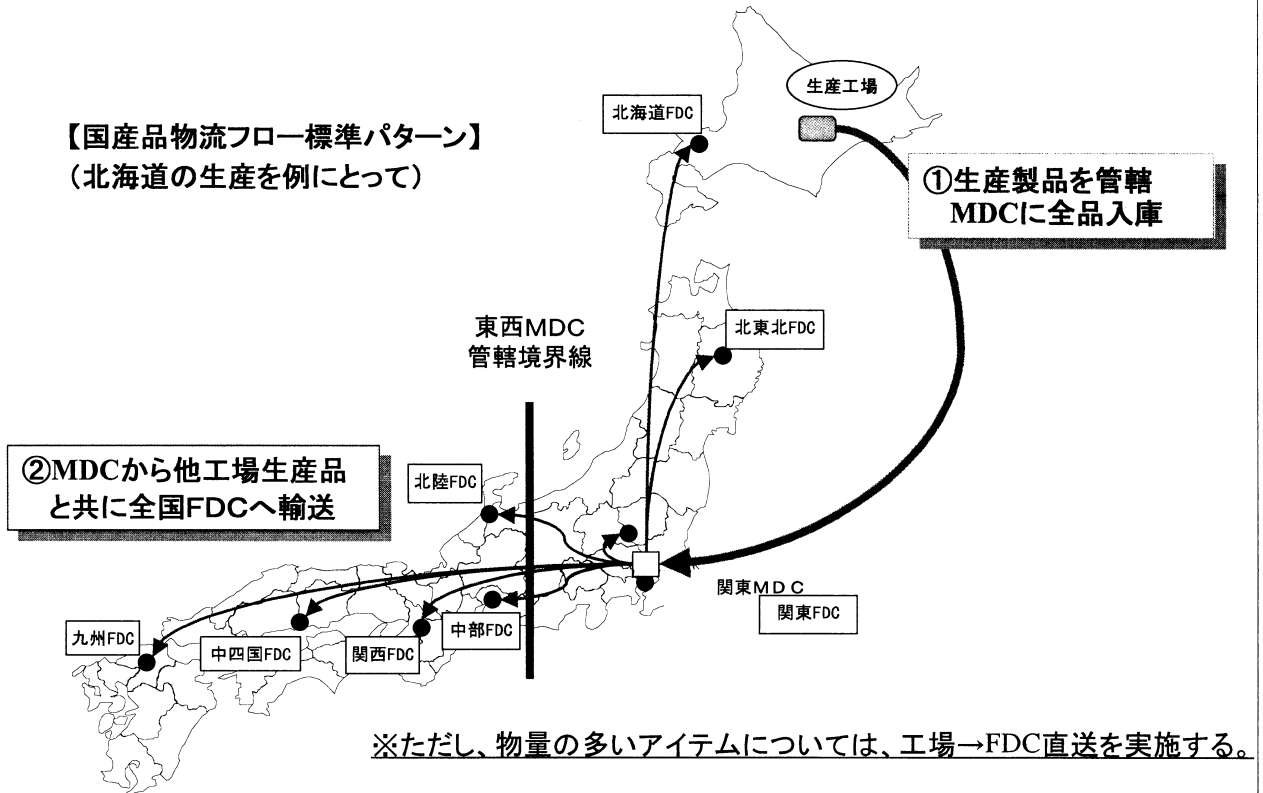


④輸送計画・実績管理

⑤配送計画・実績管理

(事例2)新物流体制の概要<国産品>

各MDCの管轄エリア内にある工場の製品を全て該当MDCに入庫し、全国のFDCへ輸送する。



(事例-2)新スキームのポイントと効果の見込み

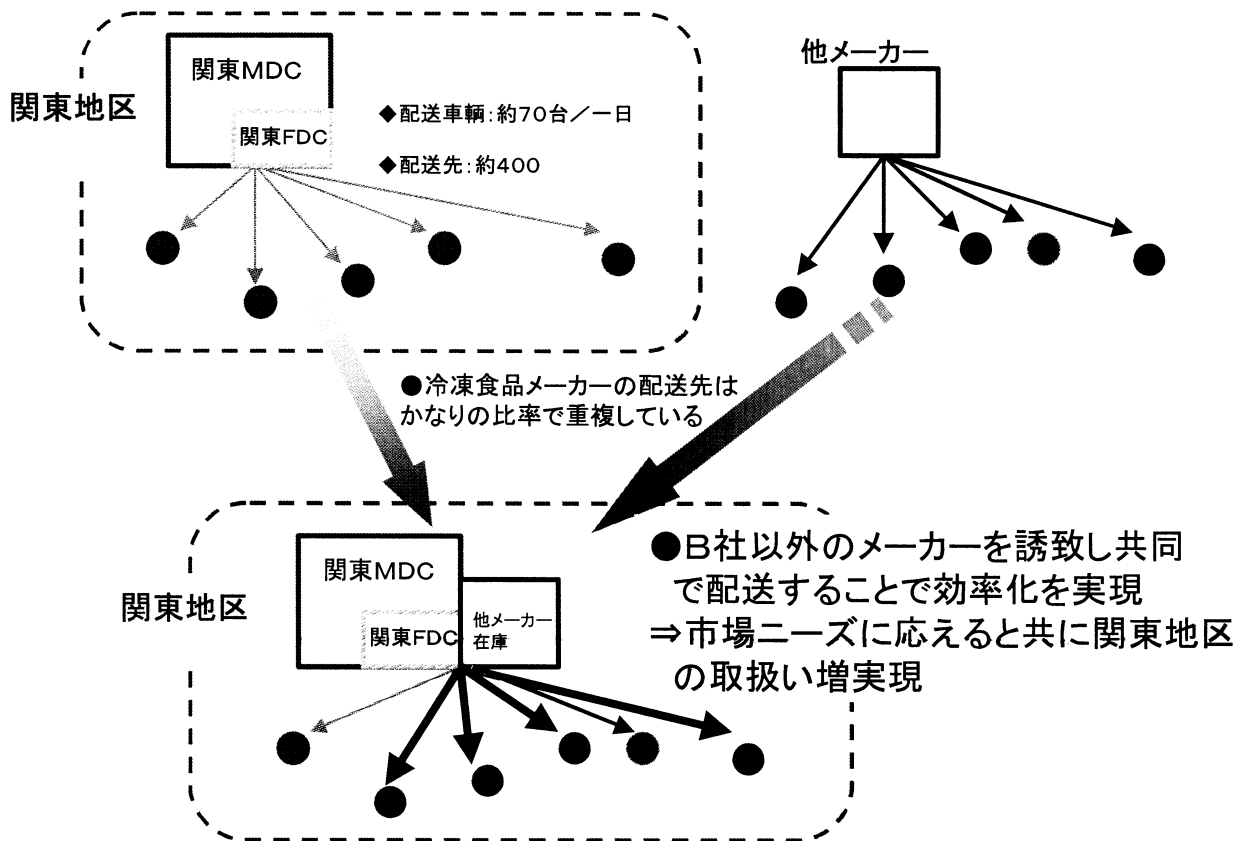
新スキームのポイント

- ◆新スキームをベースに生産と在庫をコントロールすることにより
全体在庫を削減
⇒ 保管コスト削減
 - ◆需要予測システムの活用で輸送計画の精度を上げ、効率的な
車輛調達を実現(往復チャーター、前後の組合せ等)
⇒ 輸送コスト削減
 - ◆各支社・各生産工場の受注・発注要員が不要となる
⇒ 物流管理コスト削減
 - ◆生産工場→MDC、MDC→FDC間にパレット輸送導入
⇒ 作業コスト削減
- ◇但し、新スキーム導入により全体の輸送コストは増加

保管コスト	作業コスト	輸送コスト	配送コスト	管理コスト
減	減	増	(第二ステップ)	減
↓	↓	↓	↓	↓

削減見込み額
初年度: 163M
二年度~: 569M

第二ステップ: B社商品をベースとした共同化の推進



顧客獲得について

- ・既存のお客様からの受託範囲の拡大
他地域への展開
- ・新規のお客様の獲得→これが主体
ユーコープ事業連合沼津
静岡